

2025 年度 授業計画(シラバス)

学 科	理学療法士学科	科 目 区 分	専門基礎分野	授業の方法	講義演習
科 目 名	骨関節系解剖生理学Ⅱ	必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (2) 時間(単位)
対 象 学 年	夜間部1年	学 期	後期	教室名	903教室
担 当 教 員	永吉 啓吾				
実務経験とその関連資格	理学療法士として一般病院に勤務。認定理学療法士(学校教育)取得。整形外科クリニック、訪問リハにも従事している。				
《授業科目における学習内容》 運動器系を構成する骨格、関節と靭帯、筋系を講義と実技を通して学ぶ。骨総論では骨の形態・構造・機能・発生等を述べる事ができる。各論では身体の骨を同定する事ができ、各部位を体表から触察できる。関節と靭帯では、関節の構造を述べる事ができ、骨がどのような繋がりをもって関節となっているのかを関連づける事ができる。筋系では、骨格筋の構造と作用を理解できる。各筋の起始・停止・作用を覚えた上で、各筋群がどのように関節を動かしているのか関連づける。					
《成績評価の方法と基準》 小テスト+モノグサアプリの記憶度で評価+期末テスト					
《使用教材(教科書)及び参考図書》 からだが見える人体の構造と機能第1版:医療情報科学研究所 プロメテウス解剖学:坂井建雄 医学書類					
《授業外における学習方法》 モノグサアプリでの問題実施 動画教材による予習・復習					
《履修に当たっての留意点》 解剖学は覚える内容が大変多くあります。定期テスト前の勉強だけではとても間に合いません。そのため、小テストを随時行います。大変だと思いますが、まずは小テストを通じて復習する習慣をつけてください。復習で学んだ実際に実技で確認していきます。理学療法士になる最初のステップとして、一緒に乗り越えていきましょう。					
授業の方法	内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容	
第1回	授業を通じての到達目標		上記教科書		
	各コマにおける授業予定	オリエンテーション(授業の進め方や内容の説明等)、骨学(鎖骨)			
第2回	授業を通じての到達目標	骨学(鎖骨、肩甲骨)を理解する	上記教科書	前回の復習と今回の予習	
	各コマにおける授業予定	骨学(鎖骨、肩甲骨)			
第3回	授業を通じての到達目標	骨学(上腕骨、橈骨、尺骨、手根骨)を理解する	上記教科書	前回の復習と今回の予習	
	各コマにおける授業予定	骨学(上腕骨、橈骨、尺骨、手根骨)			
第4回	授業を通じての到達目標	上腕骨学の振り返り	上記教科書	前回の復習と今回の予習	
	各コマにおける授業予定	上腕骨学復習			
第5回	授業を通じての到達目標	関節学(上肢帯～肩甲骨)を理解する	上記教科書	前回の復習と今回の予習	
	各コマにおける授業予定	関節学(上肢帯～肩甲骨)			

授業の方法	内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	授業を通じての到達目標	関節学(肩関節)を理解する	上記教科書	前回の復習と今回の予習
	各コマにおける授業予定	関節学(肩関節)		
第7回	授業を通じての到達目標	関節学(肩関節・肘関節)を理解する	上記教科書	前回の復習と今回の予習
	各コマにおける授業予定	関節学(肩関節・肘関節)		
第8回	授業を通じての到達目標	関節学(肘関節～手関節)を理解する	上記教科書	前回の復習と今回の予習
	各コマにおける授業予定	関節学(肘関節～手関節)		
第9回	授業を通じての到達目標	関節学(手関節)を理解する	上記教科書	前回の復習と今回の予習
	各コマにおける授業予定	関節学(手関節)		
第10回	授業を通じての到達目標	筋学(上肢帯)を理解する	上記教科書	前回の復習と今回の予習
	各コマにおける授業予定	筋学(上肢帯)		
第11回	授業を通じての到達目標	筋学(上腕～前腕)を理解する	上記教科書	前回の復習と今回の予習
	各コマにおける授業予定	筋学(上腕～前腕)		
第12回	授業を通じての到達目標	肩関節周囲筋を触診できる	上記教科書	前回の復習と今回の予習
	各コマにおける授業予定	肩関節周囲筋の触診		
第13回	授業を通じての到達目標	肩関節周囲筋を触診できる	上記教科書	前回の復習と今回の予習
	各コマにおける授業予定	肩関節周囲筋の触診		
第14回	授業を通じての到達目標	筋学(前腕～手部)を理解する	上記教科書	前回の復習と今回の予習
	各コマにおける授業予定	筋学(前腕～手部)		
第15回	授業を通じての到達目標	振り返り	上記教科書	前回の復習と今回の予習
	各コマにおける授業予定	まとめ		